

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たけのこさん			
○保護者評価実施期間	R7年 2月 1日 ～ R7年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	R7年 3月 1日 ～ R7年 3月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・送迎区間は範囲の区別なく広範囲で行なっている。 ・送迎時間、送迎場所の変更は当日でも可能な限り受け入れている。 ・家族支援を重視し、話しやすい関係性を作りコミュニケーションを大切にしている。	・家庭の事情に合わせて送迎時間・送迎場所の変更を行ない、家庭の負担を軽減している。 ・送迎時の乗車・降車は職員2名で安全に行なっている。 ・送迎時、1日の様子等を積極的に報告している。	・家庭負担の軽減と子どもの活動時間の確保のために、送迎時間や場所に関して配慮する。 ・今しかない大切な幼児期を家族と一緒に丁寧に見ていくようにする。
2	・休日や長期休みに課外学習を多く取り入れている。 ・小集団での活動を多く実施している。	・課外学習で事業所から出ること、社会的なルールを学ぶことができるようにしている。 ・体験を通して学べるようにしている。 ・小集団で活動することで、子どもひとりひとりに目が行き届くようにしている。	・指導を小集団でいかに有効的に個別支援計画に反映していくかの取組を行っていきたい。
3	・保育園や幼稚園など併用施設との情報交換を行い、併用施設での児童の活動状況を見たり、職員との情報交換を通じて児童を総合的に支援している。	・情報交換には担当職員の設定をし、多角的な視点から児童の状況を見るようにしている。併用施設の職員との情報交換を通じ、お互いの取組や課題を洗い出し、児童の成長に結び付けている。	・連携を通じて児童を総合的に見ていくといった取組を今後も継続していく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所設備の老朽化。	・建物が古く水漏れがあるため、活用できていない部屋が隔離、個別指導を一部屋で完結しなくてはいけなくなっている。	・専門業者を手配し、修繕を行なっている。
2	・地域交流が少ない。	・外部や初めての場であったりと、環境の変化に対し不安が強い児童もいて、配慮している部分もあった。 ・街中に事業所があるため、公園や学校や公民館も少ない。	・課外活動の際は、職員も十分な配慮をもって関わりながら地域に出たり、地域の子どもたちと接する機会を増やしていく。
3	・非常時等の対応が、保護者に認知されていない。	・避難訓練、事業所の安全対策、自然災害の業務継続化計画、感染症の業務継続化計画など保護者への周知が不十分。	・計画策定の周知をはかる。計画書の配布、園だより、ホームページ、連絡帳等のツールを使い実施していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 たけのこさん

公表日 R7年 4月 1日

利用児童数

5

回収数

3

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	100%					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%					
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	100%					
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	100%					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	100%					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	100%					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている と思いますか。	100%					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体 制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発 信されていますか。	100%					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%					
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニ ュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されて いますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100%					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な 訓練が行われていますか。	100%					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される 等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	100%					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や 事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%					
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100%					
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		たけのこさん					公表日	R7年 4月 1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		玄関や園庭の出入り口には、段差があり気をつけて対応している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		建物は古いが清潔に保てるようにしている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		必要な時は、個室に移り過ごすことが出来る。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		人事考課やサービスアップ活動に全職員が参加している。	常に意識して業務改善に取り組んでいきたい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		保護者からの意見には耳を傾け改善に努めている。保護者から出た意見について、共有し改善に努めている。	常に意識して業務改善に取り組んでいきたい。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	80%	20%	少人数なので意見は把握しやすく、業務改善につながっている。	日々の業務に流れてしまう傾向もあるので、十分に話し合いの機会をもって取りこんでいきたい。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%		第三者による外部評価は実施していない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		県や障害施設事業協会及び関連施設や他事業所の研修に参加出来ている。	更に研修し、常に向上する意識を持ち続けたい。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		たけのこさんのHPで公開し、保護者にも配布している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		保護者や相談支援員からの聞き取り、児童の課題の分析をし、ニーズに合わせて作成している。	十分に時間をかけ丁寧に取り組んでいきたい。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		担当職員や時には他職員にも話を聴き取りながら、共通理解のもと作成している。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		全職員で共有する機会を持っている。また、個人ファイルにも収めている。	常日頃から、支援計画に立ち戻る取り組みを大切にしていきたい。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		入所児に日常生活や児童の行動状況を把握するアセスメント用紙の記入をお願いしている。保護者に記入していただいた後、聞き取りも実施している。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		園児に合わせて、スモールステップの目標及び具体的な支援内容にしている。	具体的な内容を支援計画に織り込むために、より綿密なアセスメントを行っていきたい。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%					

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	85%	15%	個々に合わせて相応しい活動に参加できるようにしている。	固定化しないように常に新しいプログラムを取り入れていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			支援計画の段階で、個々による個別と集団の特徴を取り入れた支援プログラムを意識していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		朝のミーティングで1日の流れ、支援内容について確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	85%	15%	必要事項についてはその都度報告をしている。	支援後の打ち合わせが、清掃や送迎等で抜けることが多いので定着させたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		日々、ミーティングノートや日誌などをつけて、支援に繋げている。口頭でも報告をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		定期的に個別支援会議を行い、最長6か月を超えないようにモニタリングを実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		児発管や担当者など、園児をよく理解しているものが参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		必要に応じて適切な関係機関と連携できるようにしている。特に併用している保育園や幼稚園との情報交換は力を注いでいる。	定期的には行っていない。保育園や幼稚園以外は要請があれば支援の体制を整えている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		園児が併用している幼稚園や保育園と保護者の希望があれば、情報交換を行い共通理解が出来るように取り組んでいる。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		保護者の希望があれば学校へ情報提供し話し合いをしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	100%			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		100%		地域にある施設などの園外保育で他児と同じ空間で接することはあっても、一緒に活動する機会はない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		個別的関わりを通じて、共通理解を深めている。個別指導時のカンファレンスで共通理解ができるように努めている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%			学校見学や公演など情報提供は行っているが、保護者の参加状況はつかめていない。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		契約を結ぶ際に行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		保護者や相談支援員からの聞き取りを行い子どものニーズに合わせて作成している。	

保 護 者 へ の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%		同意を得る際には、個別支援計画の原本を見せて保護者に補足説明をしながら行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		カンファレンスや送迎の際親子で登所した際に相談を受けている。保護者が相談しやすい雰囲気を感じられるように職員の対応も気をつけている。また、家庭を訪問しての相談も受けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		100%	父母の会等は設置していない。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		相談や申し入れがあった際は、職員間で共有、検討し対応している。	文書等で周知していないので、今後、園だよりなどで周知していきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		園だよりやSNSで日々の活動の様子を載せている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		日頃から注意している。幼稚園や保育園との情報交換も事前に保護者に伝えてから行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		個々に合ったコミュニケーションツールで行っている。絵カード等も使用している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100%		事業所の行事に地域住民を招待することはハードルが高いと感じています。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		各種マニュアルは作成している。児童発達支援事業として行うべき消防訓練は実施している。	今後、順次、各種マニュアルの周知を図っていきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		毎月実施している。	今後、訓練内容もより実践的なものにしていきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		入園の際に記入して頂いたり、聞き取りを行っている。入園後も年度初めに確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	80%	20%	保護者からアレルギーの確認を行っているが、医師の指示書はもらっていない。行事等で食品を提供する際は、保護者に再度確認し安全を図っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	70%	30%	療育中に想定される事故に関しては、職員間で話し合い、安全管理に努めている。	現在、不足分のマニュアルを作成中。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			現在マニュアルを作成中であるが、作成後は保護者に周知したい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハットの事例があった際は、報告書を作成して再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		毎年、法人内研修に職員全員が参加している。しせつがの研修に参加し行動を見直している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%		法人外の研修に参加している。	身体拘束の事例は今までないが、適正な対応については、保護者に周知し、情報を提供していきます。